

G1-7. 都市近郊地域における田園景観の維持管理に関する研究 ～ 福岡県糸島郡志摩町桜井地区を事例として～

高橋 由資

1. 目的

近年我が国において、田園地域に対して景観資源としての重要性が指摘されるようになってきている。しかし、農業の衰退や都市化の進展に歯止めがかからない中で、田園景観の喪失が懸念されている。

本研究では福岡市近郊にある志摩町桜井地区の田園景観に着目し、地域住民に対するヒアリングを通じて農村の営みと田園景観との間にある関係を明らかにし、今後の田園景観の維持管理のあり方について考察した。

2. 内容

2.1 対象地の概要

福岡県西部，糸島郡志摩町(町土約 5400ha，人口約 1 万 7 千人)は福岡市近郊に位置しているながら田園景観を良く残す地域である。(図 - 1)しかし、九州大学の移転計画，近郊の都市開発の影響により、周辺景観との調和を無視した農地の大規模な宅地化や山林の宅地造成等が生じつつあり、田園景観の喪失が懸念される。また、町内においても産業形態の変化から農家数及び耕地面積の減少(図-2)その他高齢化，新住民と旧住民の混住化などの問題点を抱えている。本研究のヒアリング対象地である桜井地区(面積約 863ha，人口約 1500人)は、名勝二見ヶ浦や桜井神社といった歴史・観光資源を有する地区であり海あり山ありといった多様な地理的特長をもつ地域である。当地区は農業中心の地区であり、桜井川周辺に広がる水田や里山の麓に張り付く集落といった田園景観を今日においてもよく残す地域であるが丘陵地を中心に農地の遊休化が進みつつある。

2.2 桜井地区における田園景観の構成要素

桜井地区田園景観の空間構成は以下の2通りに分類される。

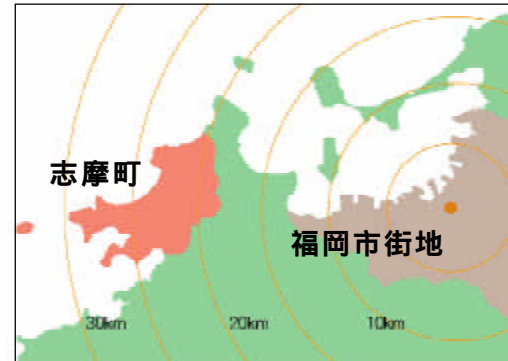


図 - 1 対象地の位置関係

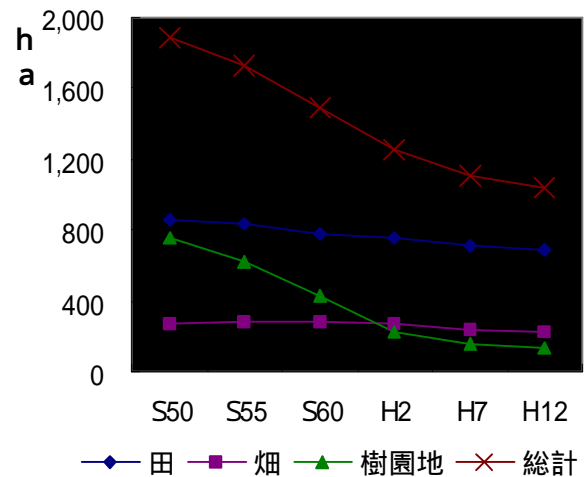


図 - 2 耕地面積の推移



図 - 3 桜井地区

谷間型：

里山や丘陵地の麓に集落が張り付いて存在し、集落の前に道路が通りその前方には水田や畑などの耕作地が広がる地形。(図-4)

奥里型：

集落が里山や丘陵地などの樹林に取り囲まれ畑などの耕作地がそれほど広くなく周囲の樹林に取り囲まれる形で存在し、その間を道路が通る地形。(図-5)



図-4 谷間型



図-5 奥里型

更に、こうした田園景観を構成する要素は以下の5つに分類することができる。

里山(集落に関係しない樹林地)

農地(農地の端に存在する畦道を含む)

集落(集落に存在する各々の家と共に垣根などを含む)

道

川(集落に流れる小さな水路や川などの水面)

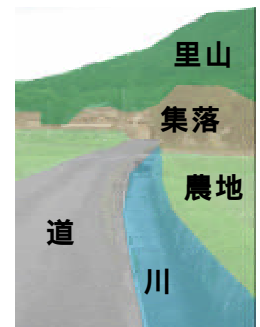


図-6 景観構成要素の抽出例

2.3 地域住民の活動と景観要素との関係

地域住民に対して、前記の各景観構成要素と地元住民における日常生活がどのように関係しているかについて訪問ヒアリング調査を行った。ヒアリング総数は21戸であり、これは桜井地区全戸数の約5%である。ヒアリングを行った住民の住居の位置を図-7に示す。

桜井地区で行われている田園景観の管理活動は地元で自治会などを通して行われる管理(以下、集団管理)と個人によって行われる管理(以下、個人管理)の2つに大きく分けることができる。その内容については以下のようなものである。

集団管理：

桜井川、溜池、桜井神社の3つの地域が自治会によって管理されている。(図-8)

個人管理：

個人の所有である農地や里山、集落について個人的に行われている。

次に、ヒアリングの結果をもとに地元住民の取り組みを管理活動への姿勢や意識から分類すると、以下の4つのグループに分けることができる。

グループA：

主として専業農家、旧住民。このグループは、旧住民で構成されているために地域の慣習につい

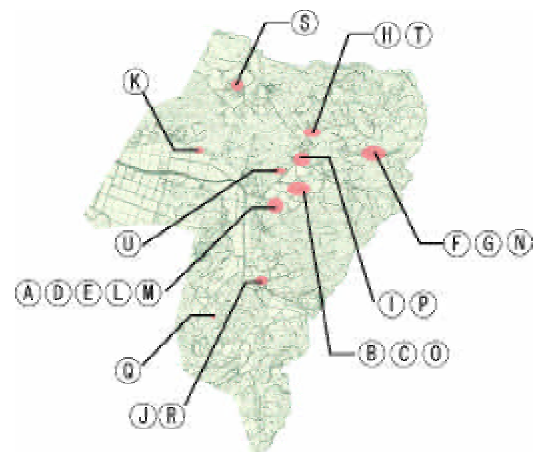


図-7 ヒアリング地

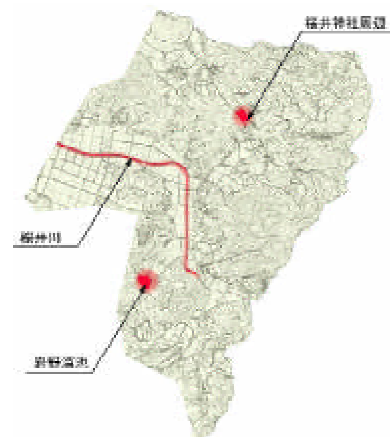


図-8 集団管理が行われる地域

での理解が深い。そのため、集団管理に分類される活動に参加することが常識化されている。また、個人管理においても農業への関与から景観構成要素へのかかわりが深い。意識的に景観面への配慮は行われてはいないが、農業が生活の収入源であるため土地に対する維持管理が必要とされており、結果的に田園景観への維持管理を行っている。

グループB：

主として兼業農家、旧住民や自給的活動を行う新住民。新住民、旧住民を問わず収入の中心は農業ではないが、個人の所有する土地を使って農業に関わっている。旧住民に対しては先祖から受け継がれている土地を管理している場合が多く、新住民の場合は先祖から受け継いだ土地などが無いため敷地内での家庭菜園などにとどまる。地域の慣習についてはグループAと同様に理解が深く、集団的管理への参加も常識として行われている。個人管理については、時間の都合に合わせた農作業という形で管理活動が行われていることが多い。そのため、農作業のための管理が結果的に景観構成要素への管理につながっている。また、このグループでは趣味的活動により田園景観が管理されていることもある。

グループC：

高齢者、旧住民。多くの場合隠居生活を送られている高齢者で構成されているため、活動量は多くないが土地に対する愛着とこれまでの耕作地を荒らしたくないなどの意思から個人的に可能な限りの管理が成されている。

グループD：

農業に関与せず地域の活動に理解がない新、旧住民。農業に対する関心が無く、また実際の活動も行わない。他産業に従事するために自分の生活と維持管理活動に対する理解がない。地元への意識が薄く集団的に行われる管理にも参加しないことが多い。

これらのグループによる維持管理の現状を景観構成要素ごとに整理すると、表-1のようになる。各々の要素に対する内容は以下のようである。

表 - 1 管理の状況

	集団	個人				
		里山	農地	集落	川	道
グループA		×				
グループB		×				
グループC						
グループD	×	×	×	×	×	×

：維持管理が行われている

：維持管理される土地の減少が見られる

×：維持管理が行われていない

里山：

この構成要素に対して管理活動が見られるのはグループBとグループCである。両者においてその活動が趣味的に行われていたり、昔から山を管理してきたといった経緯を持っている。生産活動の視点から生産性がないと判断される里山は趣味的行為でしか管理されなくなっている。

農地：

グループA～Cにおいて管理活動が見られる。

グループAの場合には、農業が生活の収入源である事から生産の場である農地の維持管理の必要性があり、結果として景観への維持管理が行われているといえる。グループBについては農作業への必要性のほかに土地を維持管理していくという意味を持つ人が多い。しかし、活動時間には限界があり、個人の趣味や態度によっても維持管理の内容は多様である。グループCの場合は、体が動く範囲において活動されているため活動量に限界があるものの、家族のための自給的農業であったり、趣味的活動による管理が見られる。景観構成要素への維持管理という面に置いては、特に意識はしていないものの、農的活動によって間接的に田園景観の維持管理が行われているといえる。

集落：

グループA～Cにおいて、自分の家周りを管理しておく事が常識化されているために維持管理が行われている。人目から見てよく見えるようななどの景観的な考え方がある一方で近所に迷惑をか

けないようにといった考え方もあり地元で暮らし
ていく上での気遣いや生活の場を綺麗に保つと
いった意識から管理が行われている。

河川：

集团的には、グループA～Cにおいて管理され
ている。このような管理は地域の重要な水源とし
ての認識から共同で作業が行われている。農業に
必要な水源としての認識が強い。一方で農業に全
く関与しないグループDでは自分には関係ない事
と捉えられているようである。

道路：

田園景観の維持に関して集落周辺で使用される
地元住民以外の利用が無い場所ではもともと汚さ
れることがなく道路周辺の管理においては集落の
管理と合せて行われている。

2.4 田園景観維持管理に対する課題

ヒアリング調査とその結果から田園景観の維持管
理に関する課題を整理した。

維持管理される土地の減少と放棄

土地の減少によって虫食いの的に人間の営みが感
じられなくなると桜井地区のように特徴的存在で
あるランドマークのない一連の要素の構成によっ
て形成される景観はもはや田園風景では無くなっ
てしまう。確かに農地などの維持管理は景観を主
体に捉えたものではなく、本来は生産活動から間
接的に生まれる管理によってなりたっていた活動
である。そのような土地が生産性を欠くようにな
り維持管理する土地が減少する今日においては田
園景観を維持していく事が困難になることが考え
られる。

維持管理に対する認識の喪失

農業や生活に関して営まれてきた生産活動が行
われなくなること地元住民の維持管理に対する
意識がなくなりつつある。また、地元住民には田
園景観は日常の風景でありその価値について認識
がないことが多い。

地元慣習の不理解

桜井地区のような都市近郊地域では新住民とし
て移り住む人が地元の慣習を理解しないため地域
の住民で行われてきた管理活動へ参加しなかった
り、新住民と旧住民の間で意思疎通に障害が生じ
るなどの問題により間接的に田園景観への維持管

理に支障をきたす恐れがある。

個人管理の限界

生活スタイルが変化した今日では個人の所有す
る土地に対しての活動に割ける時間が減少しており、
個人で行われる維持管理に限界が見られる。

2.5 桜井地区に見られる対策

対象地桜井地区で自発的に行われている対応策
についてヒアリングから得られた情報を元に整理
すると以下の点が挙げられる。

耕作放棄地の貸与

自分の家で高齢化や他産業への従事のために耕
作できなくなった土地を桜井地区の専業農家や造
園業をされている方へ貸すという地元住民による
土地貸与である。その場合には、貸す家によって
様々であるがほとんど貸与金を取らずに土地を貸
されている場合が多いようである。

水稻耕作組合の活動

稲作りの後継者不足、農業従事者の高齢化など
の問題に対して水田の耕作放棄は問題視されるこ
とを受けての対応として水稻耕作受託組合によっ
て活動が行われている。活動内容は、機械の貸与
を始め田植えや刈り取り出荷などを基準料金を設
定し行われる。

3. 結論

以上ヒアリング調査から対象地における景観構
成要素への関わり方を整理できた。また、管理状
況のグループ化によりその各々についての管理へ
の実態が整理できた。

桜井地区は田園景観を多く残す地域であるが、
当地のヒアリング調査から里山や農地といった景
観要素について維持管理される土地の減少が見ら
れた。また、生活や農業といった地元での生産活
動からの維持管理が困難になりつつある今日にお
いて、田園景観の維持管理は地元住民だけでは対
応できない。都市住民と田園地域の交流や、新た
に移り住む新住民と旧住民の交流などから田園景
観の価値を再認識するという意識的側面への取り
組み、維持管理への理解だけでなく労力面や財政
面での支援、更には周辺の景観を維持管理する法
的政策を行っていくことが今後の田園景観の維持
管理につながると考えられる。

G1-7.Conserving Rural Landscapes Near Urban Areas

~ A Case Study in Sakurai,Shima-town,Fukuoka ~

Yusuke Takahashi

In rural communities located near urban areas, the natural landscape is being recognized as a unique and increasingly important and valuable resource. A range of activities to preserve rural landscapes is currently underway in response to environmental concerns and local interests.

The primary purpose of this study is to articulate efforts made by local residents in maintaining the rural landscape and to consider current land use in relation to future conservation. The Sakurai area of Shima Town, Fukuoka Prefecture was chosen as the case study site. This rural community is located about 25 km west of Fukuoka City and has many of the problems usually associated with rural Japan, such as an aging population, abandoned or underused farmland, and so on. These issues make it difficult to maintain a healthy landscape because most of the rural land in Japan is privately owned, and conservation efforts are not always consistent.

In order to keep the landscape well maintained, it is necessary to know what efforts have already been made and to identify where risks to the rural landscape still exist. This paper analyzes the landscape around Sakurai and identifies two types of spatial structure. It then provides further classification of the rural landscape structure. Information gathered at a public hearing with local residents regarding their efforts to maintain the landscape is then presented. This paper correlates those efforts with the needs and risks to the landscape, such as critical preservation activities and under-maintained landscape elements. Potential problem areas in Sakurai are also identified.